

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成21年10月1日(2009.10.1)

【公表番号】特表2009-526266(P2009-526266A)

【公表日】平成21年7月16日(2009.7.16)

【年通号数】公開・登録公報2009-028

【出願番号】特願2008-554220(P2008-554220)

【国際特許分類】

G 02 B 6/44 (2006.01)

【F I】

G 02 B	6/44	3 6 6
G 02 B	6/44	3 3 6
G 02 B	6/44	3 1 6
G 02 B	6/44	3 7 1

【手続補正書】

【提出日】平成21年8月12日(2009.8.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

光ファイバケーブルであって、

少なくとも1本の光導波路と、

キャビティが設けられたケーブルジャケットであって、前記キャビティが主要表面を有し、前記少なくとも1本の光導波路が前記キャビティ内に少なくとも部分的に収納されているケーブルジャケットと、

前記ケーブルジャケットに取付けられ、前記キャビティの互いに反対側に設けられた少なくとも2本の抗張力体と、

第1のドライインサート及び第2のドライインサートを備え、

前記第1のドライインサート及び第2のドライインサートは、前記少なくとも1本の光導波路が前記第1のドライインサートと前記第2のドライインサートとの間に配置され前記少なくとも1本の光導波路を前記ケーブルジャケットに結合しするように、前記キャビティ内に収納され、

前記少なくとも1本の光導波路は少なくとも約0.5N/mの標準化された引抜き力を有し、

前記第1のドライインサートは、前記キャビティの前記主要表面と全体として整列した主要表面を有する、

ことを特徴とする光ファイバケーブル。

【請求項2】

前記少なくとも1本の光導波路は、光ファイバリボンの一部分である、

請求項1記載の光ファイバケーブル。

【請求項3】

前記少なくとも1本の光導波路は、約0.2%以上のリボン余長を有する、

請求項2記載の光ファイバケーブル。

【請求項4】

前記第1のドライインサートと前記第2のドライインサートは、総合非圧縮高さを有し

、前記総合非圧縮高さは、キャビティ高さ(C H)の約40%以上である、
請求項1記載の光ファイバケーブル。

【請求項5】

抗張力体寸法(D)を有する前記少なくとも2本の抗張力体の1本を備え、前記キャビティは、キャビティ高さ(C H)を有し、前記キャビティ高さ(C H)は、前記抗張力体寸法(D)よりも大きい、
請求項1記載の光ファイバケーブル。

【請求項6】

前記キャビティは、略矩形であり、前記少なくとも1本の光導波路は、前記キャビティ内に収納される複数本の光ファイバリボンのうちの1本の光ファイバリボンの一部分である、請求項1記載の光ファイバケーブル。

【請求項7】

前記光ファイバケーブルの小さい方の寸法(H)は、約8ミリメートル以下であり、前記光ファイバケーブルの大きい方の寸法(W)は、約15ミリメートル以下である、
請求項1記載の光ファイバケーブル。

【請求項8】

前記第1のドライインサー^ト又は前記第2のドライインサー^トの一方は、圧縮性の層及び吸水膨張性層を有する、
請求項1記載の光ファイバケーブル。

【請求項9】

前記第1のドライインサー^トは、吸水膨張性層を有し、前記吸水膨張性層は、前記キャビティの方へ外方に向いている、
請求項1記載の光ファイバケーブル。

【請求項10】

前記少なくとも1本の光導波路は、前記第1のドライインサー^トの少なくとも一部分に接觸している、
請求項1記載の光ファイバケーブル。

【請求項11】

光ファイバケーブルを製造する方法であつて、
少なくとも1本の光ファイバを繰り出すステップと、
第1のドライインサー^トを繰り出すステップと、
第2のドライインサー^トを繰り出すステップと、
前記少なくとも1本の光ファイバを前記第1のドライインサー^トと前記第2のドライインサー^トとの間に位置決めし、それによりケーブルコアを形成するステップと、
前記第1のドライインサー^ト及び第2のドライインサー^トが前記少なくとも1本の光導波路を前記ケーブルジャケットに結合させるように、ケーブルジャケットを前記ケーブルコア周りにつけるステップと、を備え、
前記少なくとも1本の光ファイバは少なくとも約0.5N/mの標準化された引抜き力を有する、

ことを特徴とする方法。

【請求項12】

少なくとも1本の抗張力体を用意するステップを更に有し、前記少なくとも1本の抗張力体を製造の一部分の間、弾性的に延伸し、それにより、張力を前記少なくとも1本の抗張力体から除いた後に前記ケーブル内の前記少なくとも1本の光ファイバについてファイバ余長をもたらす、
請求項11記載の方法。

【請求項13】

前記少なくとも1本の光ファイバは、光ファイバリボンの一部分であり、前記方法は、
少なくとも1本の抗張力体を用意するステップを更に有し、前記少なくとも1本の抗張力体を製造の一部分の間、弾性的に延伸し、それにより、張力を前記少なくとも1本の抗張

力体から除いた後に前記ケーブル内の前記光ファイバリボンについてリボン余長をもたらす、

請求項1 1記載の方法。

【請求項 1 4】

複数本の光ファイバリボンを繰り出すステップを更に有し、前記少なくとも 1 本の光ファイバは、前記複数本の光ファイバリボンのうちの 1 本の一部分である、

請求項1 1記載の方法。

【請求項 1 5】

光ファイバケーブルを保護する外装層を繰り出すステップを更に有する、

請求項1 1記載の方法。